

日本海洋科学振興財団 海外渡航費用援助 報告書

2025 年 4 月 23 日

氏 名		田村 優樹人
所 属 機 関	機関名 (大学院生は大学院と研究科名まで)	東京大学大学院理学系研究科
	職名 (学生は学年)	博士後期課程 2 年
渡航期間		2025 年 3 月 11 日 ～ 2025 年 3 月 24 日
渡航先		アメリカ合衆国、ハワイ州、ホノルル
渡航目的とその 成果、感想		2025年3月11日から 24日までハワイ州ホノルルに滞在し、ハワイ大学マノア校で開催された Wyrcki Symposium (3日間: 3月12-14日) および ENSO Winter School 2025 (8日間: 3月15-22日) に参加しました。前者は熱帯太平洋に関する最新の研究や国際的な注目テーマを知ること、後者はエルニーニョ・南方振動 (ENSO) について系統的に学ぶことと同世代の若手研究者と関係を築くことを目的としました。 Wyrcki Symposium は3日間にわたる熱帯太平洋に関するシンポジウムでした。参加者の多くは熱帯太平洋の研究で実績のある研究者であり、非常に興味深い発表を聞くことができました。また、流行のテーマや手法、データについても知ることができました。特に、手法やデータに関しては、高解像気候モデル実験か大アンサンブル実験を行うことは、国際的なスタンダードとなっており、国内との差を感じ危機感を覚えました。私自身もポスター発表を行い、著名な研究者や同世代の若手研究者と議論を行うことができました。シンポジウム中のランチや懇親会では、若手研究者を中心にカジュアルなコミュニケーションを通じて仲を深めることができました。 ENSO Winter School では、大学院生からポスドクその他参加者 (約35名) とともにENSOに関する講義や演習、グループでのプロジェクト課題に取り組みました。ここでは、自分の英語力、特にリスニング力に強い課題感を感じました。終盤ではさらに、4-5人グループでのプロジェクト課題に取り組みました。一方で、知識や解析の力は海外の同世代相手でも通用するという手応えを得ました。それだけに、英語さえできれば…という悔しさが残っています。しかしながら、同世代の友達も多くでき、若手から大御所までの優れた研究者の方々とも交流ができ、非常に実りある出張になりました。